

高精度レベルセンサの提供を通じて、 生産プロセスの自動化・効率化に貢献

独自技術を核に、レベルセンサの専門メーカーとしてアグレッシブに事業を展開する関西オートメーション株式会社。
同社の代表取締役社長 宮坂典央氏に、経営戦略や今後の展望などをうかがった。

さまざまな産業分野に貢献する
粉・粒・液体レベルセンサを提供

経済のグローバル化が進む中、メーカーの生産現場においては、さらなるコスト削減と高品質化を実現し、国際競争力を高める必要があります。ますます重要になっている。こうした要請に応えるレベルセンサの製造販売を通じて、生産プロセスの自動化・効率化に貢献するのが関西オートメーション株式会社だ。レベルセンサとは、タンクなどの容器に入った物質（粉・粒・液体）の質量・体積を計測・表示する制御機器。



宮坂 典央氏

化学・食品・飲料などさまざまな産業分野で使用されている。

同社の主力製品には、タンク内の物質の有無をポイントで検出するレベルスイッチ、物質の質量・体積を連続的に測定するレベルメータ、タンクに物質を送る配管内の流れを検知するフローセンサなどがあり、一部を除きこれらはすべて自社工場で生産されている。

「ユーザーによって求められる精度や仕様はさまざま。また短納期のご注文もありますので、そうしたご要望にきめ細かく対応するため、製品に責任が持てる自社生産にこだわっています」（宮坂氏）

このほか近年関心が高まるエコ関連機器として、工場などの排ガスに含まれる煤塵濃度を測定するダストモニターも好評だ。

アグレッシブな挑戦で
オリジナル・テクノロジーを創造

設立以来、同社は業界の草分け的存在として、静電容量式レベル計など数々の独自製品を開発。国内で3本の指に数えられる実力派企業として成長してきた。

「この間に培った技術とノウハウの蓄積は、高精度・低価格・短納期の要望に応える当社の武器。今、こ

れをさらに強化するため、総合研究所において研究開発を進めると同時に、同志社大学をはじめとする産学連携にも積極的に取り組んでいます」（宮坂氏）

こうしたアグレッシブな挑戦を通じて、オリジナル・テクノロジーの創造を目指すのが同社の戦略だ。その成果として、08年には世界特許を取得した粉体用レベルスイッチ「スイングマスター」の開発に成功。昨年10月には「大阪ものづくり優良企業賞2010」を受賞した。

計測業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあるが、同社はこの局面を積極的かつ柔軟な取り組みで乗り切る構えだ。

「メーカーの生産拠点が海外へ移っている現状では国内市場のみならず、海外への輸出も視野に入れ、当面は国内に軸足を置きながら海外市場にも活路を開く方針です」（宮坂氏）

現在、中国、韓国、タイ、ベトナムなどに海外代理店を設置している。

同社は、人材育成でもアグレッシブな姿勢を崩さない。大学教授や講師による社員教育や、職業能力開発促進センターでの研修など、社内外で自己研鑽の場を提供している。